

編集後記を書くだけで読者からの信頼を高める方法



「編集後記」は誰のために書くのか

「編集後記」、「追伸」、どちらも同じ意味合いで使いますが、記事の最後に書く補足や感想などのことです。

メルマガでは「まとめ」までは1つのテーマに沿った文章を書きますが、「編集後記（追伸）」は基本的に何を書いても自由です。

一般には書いた記事に対して感じたことや、記事の内容について一番大事な部分を後押ししたりします。

メルマガにおいて「編集後記（追伸）」まで読んでくれるのは、かなりのファンです。

書籍などでも「編集後記」や「あとがき」といった形で、本文が終わった後に書かれています。ここまで読むのは相当その本や作者が好きじゃないと読まないですね。

それと同じで、あなたのメルマガで「編集後記（追伸）」を書くのは、ファンのためだと思ってください。

ファンを満足させることは、ファンがあなたに対して感じる価値をさらに高めてくれます。

書くこと

自由に書いて良いとなると、大抵の場合かえって書けなくなるものです。

なのでここではシンプルにあなたが伝えたいことを書くということをオススメします。

上の方でも書きましたが、「編集後記（追伸）」はあなたのファンのために書くものです。

なので、あなたの感情や欲求など、あなた自身が見えるようなことを書けば書くほど良いです。

「私は〇〇が好きです」

「私は〇〇が嫌いです」

「私は〇〇をしたい」

「私は〇〇がしたくない」

「私はこうなりたいです」

「私はこうなりたくはないです」

「私は皆さんにこうなってもらいたいです」

「私は皆さんにこうなってもらいたくはないです」

これは**あなたの感情を意図的に見せる**という目的があります。

どうしたら嬉しいのか、どうされたら嬉しいのか
どうされたら腹が立つのか、どうしたら悲しいのか
など、これらを体験に基づくエピソードや日常の一コマを通じて
伝えていきます。

自分の子供や奥さんのこと、ペットのこと、
好きな食べのもののことなど、それらを通じて
感情を伝えていきます。

感情は上にも書いたように、

こうなりたい、こうなりたくない、
こうしたい、こうしたくない、
こうなってほしい、こうなってほしくない

という視点から伝えます。

例えば、

「子供と遊ぶ時間をもっと取って、一日遊び疲れてみたい」
「奥さんと県外の温泉旅行に出かけたい」

とかです。

それによって、読者からの共感が得られます。

ファンの人に共感を持ってもらえば、さらにあなたに対する信頼度が高まりますし、ファンってほどではなかった人も共感できる部分があることでファンになっていきます。

そのため、共感をより得るためには、
色々な感情や欲求を伝えるようにします。

読者も色々な感情をもって、共感する部分は
人それぞれです。

数撃ちや当たるじゃありませんが、できるだけ色々伝えれば、
そのどれかで共感を得られる可能性が高まります。

読者にすごいと思わせる禁断の使い方

これは編集後記をものすごく効果的に使う方法です。
タイトルの通り禁断の使い方になりますので、
絶対に他の人には教えないでください。

では、そのやり方ですが、

まずは編集後記を使って、普段から自分の欲求を何気なく
伝えておきます。

そして、自分の欲求が実現したというストーリーを
時系列で伝えます。

これだけです。

例えば、「海外旅行に行きたい」と何度か伝えておいて、
「ついに行ってきました！」とワクワク感たっぷりに
後日談を伝えます。

これを繰り返すとどうなるのでしょうか？

読者はこの人**”すごいなあ”**って思うんです。

すごいなあって思われることは、
読者から信頼してもらえることにつながります。

なので、編集後記を効果的に使うのであれば、伝える欲求も必ずその後に達成できることを書かないとです。

あらかじめ達成できることが分かっていることを、それをやってみたい、やりたくてしょうがないという風にさり気なく伝えておき、

後日、ついにやってみました！と、達成したことを報告する。

いくなれば出来レース。
やらしいですね。

やらしいですが、嘘はついていませんし、あなたは実際やりたかったことをやっただけです。

それだけで、この人はいつも自分の欲求を叶えてすごいなあ、この人みたいになりたいなあと思わせることができるのです。

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前 許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。